

新編武藏國風土記稿

多磨郡

卷之百二十四

別記

庫	文	閣	内
一七三函架	二五二冊	二七三七號	和書類

庫	文	閣	内
一七三函架	二五二冊	二七三七號	和書類

和書類

武藏

内閣文庫	
番號	和 22727
冊數	252(123)
函號	173 212



編纂也
新編武藏風土記卷之一百二十四目錄

多磨郡之三十六

野方領

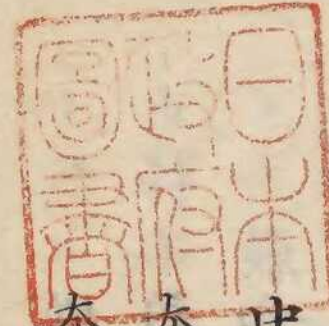
丙一〇八九六號



江古田村

片山村

上高田村



中野村

本鄉村

本郷新田

堀之内村
雑色村
和田村

新編武藏風土記卷之一百二十四

多磨郡之三十一

野方領

江古田村



江古田村ハ。東ノ方豊嶋郡ノ界ニ了リ。郷庄ノ唱ヲ

江戸日本橋ヨリ行程三里。村名ノ起リヲ詳ニ

セズ。鎌倉大艸紙ニ文明八年四月太田道灌上杉刑

少輔千葉自胤等。江古田原沼袋ト云所ニ馳向フト

江古田ノ地。昔キ地名ナリ。コトシルベシ。猶下

録スル所。古戰場ノ餘下ヲ合セシルベシ。又小田
原北條家人所領役帳ニ。太田新六郎知行。當所五貫
文。寄子恒岡。越後守配當ノ分ト見エタリ。コノ越後
守ハ永祿九年上総國三船臺ノ合戦ニ。太田源五郎
氏資ト共ニ討死シケルニ。實子ナケレハ。カレカ身
ノ僧泰翁禪師ト号シテ。其頃崎玉郡平林寺ニ住職
シ在ケルカ。家名斷絶スヘゲレハ。沙門ノ事ナレト。
越後守カ一跡相續ノコト下知ニ任スヘキヨシ申
ツカハシケル。文書ヲ藏セシカ。彼寺寛文年中新座
郡野火留村ニ轉移シテ。今モ藏セリト云。村ノ廣サ

東西十五町南北ハワツカニ其半ニ至レリ。南ハ沼
袋村ニトナリ。東ヨリ北ヘハ豊嶋郡葛ヶ谷長崎中
荒井ノ三村ニ接シ。西ハ上鷺ノ宮。及ヒ豊嶋郡中村
ニツケリ。村内平ニシテ水田ハ村ノ中央ニアリ。
民家百十軒。東北ノ方ニ住ス。土性ハ野土ニテ真土
モ交ハレリ。村ノ中ホトニ一條ノ道アリ。西ノ方上
鷺ノ宮村ニリ。東ノ方豊嶋郡葛ヶ谷村ヘ達ス。是往
古ノ街道ノ名殘ナリトイフ。其幅ハ二間餘アリ。今
石神井村ヨリ江戸ヘ通フ道是ナリ。村ニカハルコ
ト二十二町バカリ。當村檢地ハ天正十九年九月伊

藤小右衛門沼上伊豫封四郎右衛門池上作藏等紀
シテ。伊賀ノ者ニ賜フト云。此コロハ民家ニ漸ク十
軒許アリシトシ。正保ノ頃ノモリニハ。野村彦太夫
為重。及ヒ植村五郎左衛門村越清二郎小林長五郎
知行トアリ。寛文四辰年ノ檢地ハ。則野村彦太夫カ
ウケタマハリニテ。又元禄九子年細井九左衛門タ
タセリ。ノノ後御代官ニバク遷代アリテ。今ハ小野
田三郎右衛門カ支配所ト。伊賀ノ者ノ給地ト入會
テアリ。一ヶ所ハ東ノ方ニテ。一ヶ所ハ西ノ方ニテ。一ヶ所
高札場三ヶ所。一ヶ所ハ小名丸山ニテ。一ヶ所

東ニテアリ。又一ヶ所ハ大原村アリ。一ヶ所ハ

小名

丸山村ノ西ノ方ニテアリ。

本村ノ東ノ方ナリ。一ヶ所ハ

大原村北ノ方ナリ。一ヶ所ハ

本田屋舗。一ヶ所ハ

拍崎屋舗。一ヶ所ハ

小川屋舗。一ヶ所ハ

大籠原。一ヶ所ハ

小籠原。南ノ方ニテアリ。

水利

仙川用水 多磨川上水ノ分水。新座郡上保谷村ヨ

リ入。同郡行下新田ヲ經テ。此ホトリニ至リテハ

仙川用水ト云。豊嶋郡中荒井村ヨリ引入。石神井

村三寶寺ノ池水落合。上鷺ノ宮村ノ北ノ方ヨリ

ナカレ来リ。村内へ入處々ノ水田ニツ、ギ。流末

六豊嶋郡葛ヶ谷村ヘイタル。村ニカ、ルコトハ

町ハカリ。

神社

氷川社 除地三畝 西ノ方ニアリ。村内鎮守ナリ。社ハ

五尺四方。覆屋三間ニ二間南向。前ニ石ノ鳥居ヲ

夕。松杉ノ森ナリ。鎮座ノ年代詳ナラス。例祭

九月廿九日。

金峰山 除地八畝 東ノ方往還ノ側ニアリ。社ハ三尺

四尺。小名籠原ヲナリ。社ハ三尺三寸四尺。東

神明社 除地三畝 小名籠原ヲナリ。社ハ三尺三寸四尺。東

向。社ハ三尺三寸四尺。東

第六天社 除地四畝 木村ニアリ。社ハ三尺四方。右ノ四

社ト云。村内東福寺持。社ハ三尺四方。右ノ四

東福寺院 社ハ三尺四方。右ノ四

東福寺

除地 五段

村ノ南ノ方上鷺ノ宮村塚ニアリ。金

峰山世尊院ト号ス。新義真言宗ニテ。中野村寶仙

寺人未。此寺元ハ村内御嶽山ノ邊ニアリシヲ。年

月詳ナラズ。此處へ移シタリト云。本堂ハ八間半

軒ニ七間。本尊不動ノ立像長一尺二寸。開山詳ナラ

ズ。法流ノ祖ヲ法運ト云。享保七年十一月五日示

寂。開基ハ村民次郎右衛門ハ先祖ニテ。天正年中

ノ起立トイヘト。其詳ナルコトヲ傳ヘス。

鐘樓ハ本堂ノ西ニアリ。鐘ハ寶永七年ノ銘ヲ彫

ル。其詳ナラズ。開山ハ一國南嶽宗ニテ。其詳ナラズ。

蓮華寺

年貢地 境内 三畝

東ノ方豊島郡葛ヶ谷村塚ニアリ

リ。日光山ト号ス。日蓮宗ニテ。池上村本門寺未十

リ。當寺モト槁樹郡星川村ニアリシヲ。七十年ホ

下以前。此地ニ移ヒリト。開山ヲ日山ト云。示寂ノ

年月詳ナラザレト。第十一世日道ハ。貞享二年七

月十二日寂ス。トイヘハ。古キ寺ナルヘシ。中興ヲ

日匡ト号ス。寛保九年十二月某日寂ス。開山ヨリ

第十九世ニテ。アタレリ。過去帳ヲ閱ルニ。ソノ裏ニ

當寺開基日山。檀越大龍院起立。願主深野氏トアリ

リ。又客殿ノ願主淨心。俗称義右衛門ト見エタリ。

思フニ淨心信仰ノ了マリ。堂宇建立ノ願ヲ立シ
ガ。カク檀家モ迄ニクテハ。後破壊ニ及ハシトキ。
緜治ノコトヲホツカチキコトニカモヒ。此地へ
引移堂宇ヲ建立セシカバ。村ノ舊家深野伊右衛
門若干ノ地ヲ寄附セシナルヘシ。此伊右衛門ハ
當村名主孫右衛門カ本家ナリ。又入間郡川越町
朝田山行傳寺ハ。永和年中ノ草創ニシテ。開山日
山ハ池上本門寺第四世ノ僧ト云。則當寺開山ト
同人ナルカ。深野氏ノコト後ノ舊家ノ條ニ出セ
テ。合セシルヘシ。客殿ハ三間ニ三間半南向。本尊

日蓮ノ座像。長二尺八寸ナルヲ安ス。

舊跡

古戰場 鎌倉大艸紙ニ云。文明八年四月十三日。太
田道灌江戸ヨリ出テ出。豊嶋平左衛門カ平塚ノ
高城ヲ取卷。城外ヲ放火シテ歸リケル所ニ。豊嶋カ
村兄勘解由左衛門ヲ頼ケル間。石神井練馬ノ西城
入ヨリ打テ出。攻来リケルハ。太田道灌土杉刑部少
輔千葉自胤以下。江古田原沼袋ト云所ニ馳向テ
右合戦ニテ。敵豊島平平左衛門ヲ初トシテ。板橋赤
所塚以下百五拾人打死スト云。又鎌倉沈代後記

高札場五村西北ノ方ニあり。十浦鎮並高門ノ
 本藩門小名。高門ノ下ニあり。高門ノ下ニあり。高門ノ下ニあり。
 村ノ南ノ方ニあり。高門ノ下ニあり。高門ノ下ニあり。高門ノ下ニあり。
 大津堤。北原ノ文字ノ下ニあり。北ノ方ニあり。高門ノ下ニあり。
 村ノ南ノ方ニあり。高門ノ下ニあり。高門ノ下ニあり。高門ノ下ニあり。
 四田村ノ北境。流北ノ方ニあり。四田村ノ北境。流北ノ方ニあり。
 里妙正寺池ヨリ出。下沼袋村ヨリ村内ニあり。流末
 引分所。水田ニあり。用水ニあり。此水ハ堰ヲ力テ
 村ニあり。三町ハカリ。

神社

天満宮 北ノ方ニあり。村ノ鎮守ナリ。本社ハ一間
 四方南向。拜殿二間四方。前ニ鳥居ヲタツ。南ノ
 稻荷社 除地前ノ社ヲ 前ノ社ヨリ少シク東ヘヨ
 リテあり。社ハ四尺ニ六尺西向。右ニ社トモニ上
 高田村東光寺持。

高田村東光寺持。高田村東光寺持。高田村東光寺持。高田村東光寺持。

今八町人知行所ナリ。檢地時正保四年八月伊奈半

十郎忠治ウケタマフナリ。タタヒセリ。並ニ

高扎場村ノ中程ニアル中津村ノ五ノ村ニ

上野村小名上月村六十坪村ノ南邊ニ有リ。並ニ

北原合中ボトヨリ西北ノ方ヲ去。村ニ

上ノ山ニ東北ノ方ニ有リ。村ニ

山川ニ有リ。村ノ南邊ニ有リ。並ニ

川沼川ニテ水元ハ井草村妙正寺池ヨリ出。西南

ノ方新井村ノ境ヨリ村内ニ入。凡十町ホトナカ

レ。未流ハ東ノ方豊島郡上落合村ニ至ル。ソノ未

大ニ井頭上水ニ落入ス。北ノ方片山村ヨリ入。村境

大ニカハリ。未流下落合村ニ至ル。又此水ヲ村内ハ

引入用水トシ。下流ハ上落合村ニ至ル。村内ニカ

カハリト三町餘。以テ此水ヲ源ハ妙正寺池ヨリ

出ル下云。此水ハ

東武中神社

氷川社除地百五十坪 東ノ方ニ有リ。村ノ鎮守ナリ。本社

ハ一間四方。并殿二間四方。東向。前ニ鳥居ヲ建。

天満宮除地四畝 東光寺ノ北ノ方ニ有リ。社六尺四方。

八南向。小サキ鳥居ヲ有。并一間四方。

八幡社除地二畝東北ノ方ニアリ。一間四方ノ社

大日堂南ニ向ク鳥居又タアリ。例祭外六月廿七

日。右ノ三社イリ。村内東光寺ノ持。

東光寺境内除地八畝廿六小名山ノ上ニアリ。日

照山阿彌陀院ト號ス。新義真言宗ニテ。中野村寶

仙寺未。客殿七間四方南向。本尊藥師ノ立像長一

尺五寸ナルヲ安ス。開山開基詳ナラス。

大日堂年貢地南ノ方ニアリ。三間四方南向。坐像長

三尺一寸。厨子ノ内ニアリ。大乗院時。

大乗院 大日堂ノ側ニアリ。當山汎ノ修驗普覺山

ト号ス。江戸靈巖島福木院配下。大日ヲ本尊トス。

中野村

中野村ハ。郡ノ東ニアリ。郷庄ノ唱ヲウシナフ。江戸
日本橋ヨリ行程二里半。石ノ起詳ナラサレト。此
邊スベテ武藏野ナレバ。ソノ中ノ村トイフ意ナル
カ。已ニ古クハ上野中野下野共ニアリシカ。其後上
下ノ名ハ失ヒテ。中野ノニ残りニナリト云。又土人
ノ傳ヘニ云。竟惠北國紀行ニ。文明十九年水無月廿
八日。武藏野ノ内中野トイフ處ニ平重俊トイヘル
カ催シニヨリテ。渺々タル朝露ヲ分入テ瞻望スル

中野村ハ。郡ノ東ニアリ。郷庄ノ唱ヲウシナフ。江戸
日本橋ヨリ行程二里半。石ノ起詳ナラサレト。此
邊スベテ武藏野ナレバ。ソノ中ノ村トイフ意ナル
カ。已ニ古クハ上野中野下野共ニアリシカ。其後上
下ノ名ハ失ヒテ。中野ノニ残りニナリト云。又土人
ノ傳ヘニ云。竟惠北國紀行ニ。文明十九年水無月廿
八日。武藏野ノ内中野トイフ處ニ平重俊トイヘル
カ催シニヨリテ。渺々タル朝露ヲ分入テ瞻望スル

ニ。何レノ草葉ノ末々モ只白雲ノ三掛レルヲ。カキ
リト思ヒテ。又中ヤドリノ里へ歸リ侍リテ。
露ハラフ道ハ袖ヨリムラ消ノ。草葉ニカヘル武
藏野ノ原トアリ。小田原家人所領役帳ニ。七貫文島
津又次郎中野内正歎寺トアリ。又太田新六郎知行
八拾四貫文。中野内阿佐ヶ谷。土志田源七郎一貫文。
中野内大場ナト。イツレモ古クハ當村ノ内ニ屬セ
シカ。又ハ此邊ノ村ニテ當村ハコトニ廣カリシカ
ハスベテ中野トイヒ習ハセシヨリ。イツトナク中
野ノ文字ヲ負セテ稱スルコトニナリユキニヤ。

己。卯右衛門ガ所藏ノ文書ニ。中野郷五ヶ村ト
ユタリ。村ノ廣サハ東西十六町南北二十町餘。東ハ
神田上水ヲルキリ川ノ向ハ豊島郡柏木村ナリ。西
ハ當郡高圓寺村ニトナリ。南ハ本郷村同新田和田
村等ニ接シ。北ハ新井上高田ノ二村ニ及ヒ。豊嶋郡
上落合村ニモツケリ。村内平ニシテ。土性ハ野土
ナリ。用水ニハ神田上水ヲ用ユ。是ハ田方十二町ノ
所ニカギレリ。殘ニ拾町餘ハ所々ノ清水ヲ用ユ。旱
魃ノ時ハ上水モ減シ。自ラ所々ノ清水涸ルユハ
旱損ノ患少ナラス。民家三百四拾五軒。當所ハ

御入國ノ後ヨリ御料所ニシテ。檢地ハ寛永十六年。
其後延寶二年中川八郎左衛門關口作左衛門ウケ
クマハリヲタセリ。又享保十七年寛播磨守正鋪
承リテ新墾ノ所ヲタセリ。御代官ノ遷代寛永十
一年ヨリ同十九年ヲ伊奈半十郎。同二十年ヨリ
正保四年ヲ守屋左太夫。慶安元年ヨリ萬治元年
マテ野村彦太夫為重。寛文元年彦太夫名ヲ藤右衛
門ト改メ。天和二年マテ支配。同三年ヨリ貞享三
年マテ國領半兵衛。同四年ヨリ元禄元年マテ西山
六郎兵衛。同二年ヨリ同十三年マテ細井九右衛門。

同十四年ヨリ寶永二年マテ今井九右衛門。同三戊
年ヨリ正徳五年迄兩宮勅兵衛。夫ヨリ替ルル支配
シ。文化十年ヨリ小野田三郎右衛門支配ス。
高札場 小名中宿村。門。御代官ノ遷代

小名
淀橋 村ノ東ノ方。往還。此橋ノアルホト
西所 西ノ方。高圓寺村塚ヲ云。
橋場 前ノツトキニアリ。
鍋屋横町 南側ニシテ。妙法寺工ノ道ナリ。

史料

上宿 東ノ方同続ケリ。

中宿

打越 西北ノ方。

原 東北ノ方ニアリ。

下宿 淀橋ノ西ナリ。

原野

桃園 此地モ十百姓郷右衛門カ持ナリ。

常憲院殿御代元禄八年止ケ地トナリ。大小屋ヲ

設ケラレシガ。寶永六年ニイタリ。此小屋廢テ

同レテ。地所ハ莫トナリトク。郷右衛門ニ歸シタリ

フ。ソノ後享保年中

有徳院殿ニバ。此邊 御遊獵アリシユハ。同キ

二十年上岐美濃守 命ヲ蒙リ。地所ヲエラシメ

御立場トナシ。ソノホトリナル畑ノ畔ハ。紅桃五

十株植付サセラレ。同年又白桃ヲウエリテ。元文

九年郷右衛門所持ノ畑一畝二十歩ノ場所ヲ召

止ラレ。御立場ヲ築立。アマタノ松ヲ植。ソノ麓

ヨリ道ヲエラキ。此道ノ年貢ヲモユルサ

レ。又 御成ノ度コトニ。郷右衛門ニ銀一枚ヲタマ

ル。同三年又此ホトリ六万七千十四坪ノ所ハ。

緋桃百五十株ヲウエシユハ。春ノトニ桃花咲乱
レテ。紅白枝ヲ交ヘ。艷景目ヲ奪フハカリナリ。ヨ
リテ寛保三年御立場ノ後ハ。山丘ヲキツキ立
釣命ヲモテ諸大名ヨノ取ニ逍遙ニ。看花ヲナス
ハキ地ヲ開カセラルニヨリテ。今ニソノ所ヲ字
シテ大名山ト云。ソノノ及ニ暮春ノ比。桃花盛リナ
ルトキハ。貴賤遊行ノ者少ナカラス。大ニ賑フコ
トニナリユキタレハ。村民等ノ為ニハ却テ農業
ノ妨トナレリ。ユヘヲモテアル。御遊ノトキ。御
小姓松下專助。命ヲツタヘテ。十一軒ノ茶屋ヲ

立ルコトヲユルサル。コレヨリシテ土人ヨ、ニ
出テ茶果ヲヒサキ。遊客ヲイユハシメ。少シク生
産ヲクスク。安永ノ初ノ比マテハ。桃花モイマダ
盛リナリシユハ。土地賑ヤカナリシカ。同キ六年
鶉ノ御場トナサレシユハ。此邊四十九町七反ホ
ドノ所雜木ヲキリ除セラル。然ルニ當所ハ元ヨ
リ野土ニテ膏腴ナラザルユハ。培養ノ力ヲカラ
サレハ。樹木生茂セス。ソノカニ植シ木トモ、次
身ニ減シテ。今ハタヘクニナレリトシ。又コノ
御立場ノホトリノ小流ニ。石神井橋トイフアリ

長二間幅二間。先年御成ノトキニバク渡御
アリシニエハ。公ヨリ修理ヲ命セラル。故ニワ
ツカナル橋ナレドモ。コ、ニイヘリ。

橋梁

淀橋 幅三間長拾間許。街道入口神田上水ニ架ス。

水利

神田上水 水元ハ吉祥寺井ノ頭池ヨリ出。又遅野
井村善福寺池ヨリ出。雑色和田西村ノ境ニテ
ナ合。本郷村ヲヘテ村ノ東境ヲナカレ。上落合村
ニ注ク。此水末ハ江戸關口ヘ達ス。毎年三月ヨリ

八月ヨリ願ヲ立。本郷村地内ニテ堰ヲ設。新々

水田ニ引用ス。

神社

氷川社 除地一町 村ノ中央ヨリハ東南ノ方ヨリ

リテアル。本社ハ二間幅八尺。本地十一面觀音ヲ

尊立像長一尺七寸五分ナルヲ安ス。前立ハ素盞鳴

尊稻田姬大己貴命ノ木像三躰ヲ安ス。各長一尺

七寸二分。拜殿三間半。三間鳥居二基。一基

天ノ朱一基ハ石ナリ。左右ニ松檜並ニ夕立リ。

鎮座ノ年代詳ナラス。正五九月廿七日神酒ヲ供

又村内寶仙寺持

天神社

陰地一段
六畝廿步

村ノ北堰
社ノ四尺五寸

三尺六尺鳥居アリ。村民持十段

寶仙寺院

寶仙寺

境内一萬五千五百坪

往還ノ内小名中宿下宿ノ境

アリ。明王山聖不動院ト号ス。新義真言宗無本

寺。天正十九年御朱印十五石ヲ賜ヒ。慶安

元年八月十七日八石六斗餘ヲ増シテ都合二拾

三石六斗餘ノ寺領トナレリ傳ヘ去昔

堀河院ノ御宇寛治年中鎮守府將軍源義家奥州

ノ夷賊ヲ征伐シ御利運アリ。凱陣ノ後當

寺ヲ建立シ賜フト云サレテ往古ノ寺トナレ

其詳ナルコトヲシラス。當寺ノ和名和田村八

幡ノ別當ナリシガ。社地ヘノ路程ハ多クアリテ不

便ナレハ。末寺ニシテ職ヲ以テ別當ト云サレバ

八幡鎮座ノ時當寺ヲ起立シテ別當ト附ラレ

ヤ中奥開山ヲ聖永トイフ。永享三年二月廿四

日示寂。末寺三拾二寺。門徒二拾六寺ヲ統フ。

武州多磨郡中野明王山聖無動院寶仙寺縁

起

當寺者。陸奧守源朝臣義家鄉創建。本尊明王。乃
公之護持尊。而良辨僧正親刻靈像也。謹繹其緣
由。由。源朝臣義家。於其鄉。創此寺。以奉明王。其緣由。詳見前卷。
後冷泉帝永養六年。東奧負任叛。源公賴義以鎮
守府將軍奉詔伐之軍。屯于武野阿左谷。有雲
岐而為八。變鍵于營上。象如白幡。將軍喜曰。是八
幡之所護。吾師必利。乃疏地。又手誓曰。余賴神
助得誅賊徒。當就茲地營構神祠。而福邦家。師既
東兵。奧之地。食足兵強。將軍運策。經九年之久。負
任授首。弟宗任降。於是奧盡平矣。實康平五年也。

語載在史典。公明年春歸于京師。道出阿左谷。乃
治前瑞之地。建祠奉祀。廟宇宏麗。土人稱曰大宮
八幡。爾後方



白河帝之時。賴義嫡子義家。又任鎮守府將軍。將
之任。自謂家夷豺狼。振古稱難治。昔先君之能用
武也。尚且奕年所而見其効。况於予不肖乎。苟非
賴神佛之冥助。安得配前烈哉。迺登醍醐山。屈請
一大德。舊記失名。附平生護持之不動明王。逆旅軍中
恒修密軌像。則良辨僧正手刻者也。軍復至武之
阿左谷。乃從先蹤。謁于神廟。而後赴東奧。民服其

德政雖任已滿請以過之。寬治三年不圖清原家
衡。槐仙北金澤柵不從。朝命。朝廷又命義家
討之。僅三年而獻捷。雖策略所長。亦二靈神之冥
助也哉。凱歸之次。過常之鹿嶋祭之。此神有鎮東
夷之誓也。且手採封內苗松數根來。栽於八幡宮境內。再修
宮殿。華表牆垣。金碧交輝。亦為皇祚天長武運
地久。請寄神田若干頃。從容語醍醐大德曰。舉凱
若神速。皆神之力也。然師注丹衷。凝懇念。從我軍
伍之間。其勞亦大哉。何以能酬答。吾將建一寺。安
明王尊。傍造坊舍。置衆僧。以奉事神佛。令師管之。

於意云。何師云善哉。是舉也。貧道所欲請也。謹按
不動梵云阿左。此地號阿左谷。豈非明王應化勝
區哉。公請促之。如其物。管則有他俊賢在。吾不敢
當。公是其言。招集工匠。運轉土石。結構不日而成。
爾時偉服之神。忽然現前。自稱吾此地主。稻荷神
手與將軍一顆珠。告曰。此珠希世之珍。寶中之仙
也。以是為鎮。則武運延長。泐燈永明。言訖。化白狐
去。公及諸將。校之親見者。無不歎異也。其珠傳而
到今。山稱明王寺。名寶仙。蓋本于此去。
建治弘安間。有願行上人者。勅謚宗
燈律師。關左遊化之

次掛錫當寺。一謁靈像。大驚曰。此像靈貌不常。若有
有。厠役牧豎。謬而褻瀆之。必蒙冥譴。非其所宜。則
命寺主嚴加鎖鑰。雨來每至三十三年。令褰帳。諸人瞻禮云。別刻一像
立龕前。以充平素瞻禮。像亦有靈應。傳云。弘安帝曾召
上人受戒。而不起。御座。師奏。吾聞人能弘教。尊其教而不
敬其人。可乎。帝不悅。師乃退。而默坐。即現不動。明王形
威容赫。然不可仰觀。帝大畏。懺悔謝罪。下座受戒也。行公
威靈太率。此類他載。在行狀。故稱師不動之分身。宜哉。手刻之

像感應揭焉。相州大山寺明王像。亦上人自造。摸

範云。大德王。四神。其。木。五。新。八。并。一。

應永中山王曰。聖永。稟法妙樂寺。落合村寺。行海

海者。願行高第。鎌倉大樂寺開基。公珍。四世之法

孫也。應永丁未歲十一月十八日。鬼宿。木曜。從海受灌

頂一汎秘訣。無餘蘊。永一日相攸於下阿左谷。今

中野而謀遷寺基。以告官。官許之。遂永亨元年移

寺於今地。別建大宮寺。奉八幡神祠。仍大宮寺于

今隸于吾寺。上阿左谷。田圃間。往々猶。又造八幡

稻荷二祠。以為山鎮長。挑願行之法。燈。邀。通。歸。德。

夫鐘響者。如來聲教。法器最上也。故佛閣有則
不可無。允鐘。孫于茲武。劬多磨。郡中野鄉。明王
山無動。院寶仙寺者。真言瑜伽道場。東關無双
中門。舊地也。故雖尊容溢堂。禪客滿座。捷非關矣。未
成矣。佛場樞要。當院雖累代。嘆之予亦悲。請之
無陶鎔鑄銅之力。幸有武井氏重三郎尉慈母
祈牧野氏源朝臣成貞公家室。上深誓於當
家安全。益願於家門繁榮。則新鑄冶二尺七寸。
鴻鐘。庶幾因此。功檀女至願。頓滿焉。

惟憐矣。神鐘響。一撞動大千。等四生。偏
朝驚三。夢。夕。等四生。偏
範圍為形也。亦身。內空。闊外圓。日
人心。從物表。壘禱此。因緣
檀女。捨財淨。子孫長得全。
貞享四丁卯年十二月廿八日
明主山第三十三世法印。俊與記
助緣列衆。正藏院住法印。俊義
洞家碩師官峯
武井氏老母清光院尼公

天鏡... 藤原重行作

彌陀堂 本堂ノ西ノ方ニ在リ。四間三三間東向。

彌陀ノ像ハ座像ニテ長一尺五寸。

什物... 一尺五寸

四尊合躰像... 弘法大師ノ作ト云昔...

堀河院ノ御宇永長元年二月廿六日源義家

鎌倉鶴ヶ岡ニ參籠ノ時靈驗王非シ愛染不

動辨天毘沙門ノ四神合躰ノ像木ノ座躰ニ

ヲ長三寸八分ナリト云自ラソノ縁起ヲ記

シ玉ヲトサレト其書躰後人ノ偽作セシコ

トハ論ナシト云ハトモ其供ヲコトハ出セ

リ。

空海尊師兼和元年六月廿六日夜愛染法

修行給其夜靈夢日輪并見在於光中愛染

明王不動辨財天毘沙門天頭四面一尊形

其并顔如見空海直作之然而備檀上愛染

法修給四面放光如日輪耀云云自然空海

常此愛染修法之為本尊寔利益新靈驗不

思議尊容也其是相兼畢真雅敬白
兼和元年九月一日
這四面具相之愛深明王者從空海大法師
直雅相兼之尊像也其後予相傳之而令安
置右如傳記此愛深明王為祈願本尊一切
事滿足
天子之蒙祈願勅於此尊前為祈念御願無
不成就衆人愛敬守護給功德悉密法內有
之故略
延喜五年三月二十六日
醍醐寺
聖寶敬白

德抑四面合體之愛深明王者從弘法大師真
聖雅聖寶尊師迺相傳明王也于時永長元年
二月二十六日夜鎌倉鶴岡八幡夢中來現
并告云社內四面一尊有愛深明王影現煩禮
並與之而可為安置蒙告 則任夢想八幡宮江
社參如告四面共尊之愛深明右傳來記相深
者之不思議為思向神前并自社內聲有云
此明王汝守護之本尊也四面一尊成事於
武家四方敵防為守護此形相顯地可信神
託者則歡喜頂戴而我輩歸內檀安置有家

中照猶日光寔信心徹肝右時歎起陣所趣
此尊戰場先立四面放光矢敵中射給群類
大風如木葉散敵四方退散得正理偏此愛
漆明王威神力也可謂世希有靈尊是也
永長九年二月二十六日 義家敬白

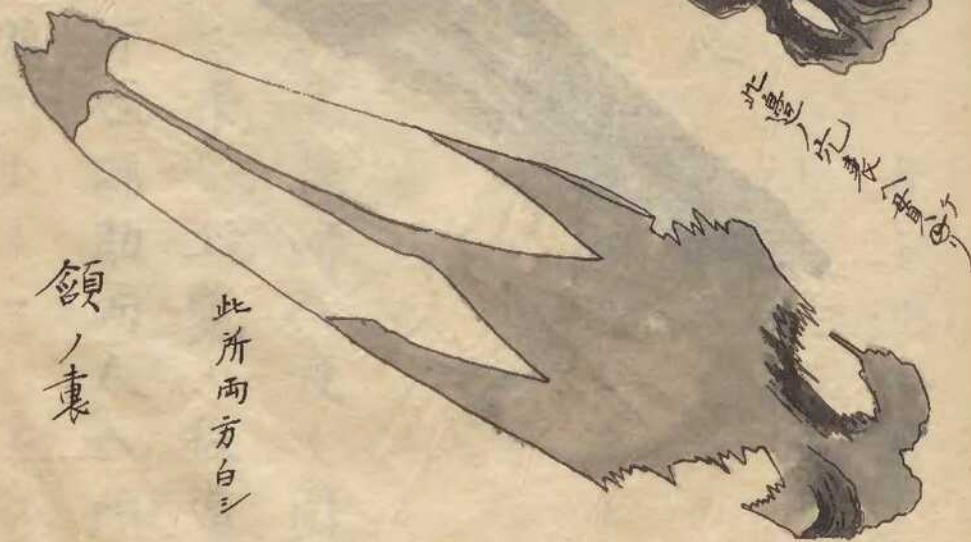
龍頭骨

長廿九寸 内カ幅四寸餘 眼以逆ハ其
キ穴ニツアリモシヤ腮ハ形ハ
定カ上ヲス傳ハ法寛永年中吉祥寺村井平
頭池邊合 童子草刈リ居タリ所ハ

小蛇来リテ童ノ足ヲカマシトセシエハ童

子鎌ヲモテツノ首ヲ切カトセリ時ニ山野
震動ニテ俄ニ雨ヲ下シリノ蛇スサマシキ
形トナリテ草中ヲハヒメクレシ童子恐レ
テニケカヘリケルニ忽チ池水涸テ一酌ノ
水モナカリケレハ村民ノ嘆キ斜ナラズコ
レニヨリテ當寺ノ住僧秀雄池上ニ至リ真
言秘密ノ法ヲ行ヒテ元ノコトク池水涌
出セシトゾ名主伊右衛門カ先祖某ナルモ
此龍頭ヲトリテ伊奈半十郎入訴ヘカク

井頭池ニ住ル
蛇ノ領骨
長ナ九寸
幅廣キ所ニ三寸



領ノ裏

寶珠

カタノヨシ申セシカバ秀雄カ法カヲ感セ
テレ。永ク什物トシテ後代ニ示スルキヨシ
天下シ賜フト云。此事妄誕ニ似タレトモ土
人ノ傳ヘニ任セテ記シテ并又此等事
鎮守府將軍源義家當寺造立人トキ納メテ
レシトシ將軍兼テ信シ玉ヘル稻荷ノ靈驗
ニヨリテ感得也シモノナリトウケカタキ
事ナリトシ傳ヘテ百餘年其事ナリト云
火車此是也

領ノ骨ヲ横リ見ル因



當寺ノ先住榮賢トイフ者。アル七者ノ障碍
 ナルセシ火車ヲ鎮メントテ。念珠ヲモテ打
 碎ケルトキ。残ヒシ爪ナリト云。コレモ甚虚
 誕ニ似タレトモ。古ヘヨリ傳ハシコトナレ
 八。聊ソノアヲマシテ記ス

象骨ノ頭ノ鼻ノ牙

享保十三年六月十三日。長崎へ渡リ。同十四
 年五月廿五日。江戸へ来。上覧ノ後。當村へ
 下シ名主卯右衛門百姓源助兩人へ預ラレ
 シカハ場所ヲ見立堀ヲホリマハシ。ソノ内

ヲ圍ヒ。鉄ノ鎖ヲモテ四足ヲツナキ。象ツカ
 七ヲ付テ養ヒテキレ。同十五年十二月十
 二日斃ス。皮ヲハク公ハ召上ラレソノ頭ト
 牙ト鼻トヲ卯右衛門源助ハ賜テレリ。後村
 民等相カハリテ。遂ニ當寺ニ納シト云。
 觀音堂 境内西南ノ方ニアリ。六間ニ三間ノ
 堂ナリ。東向。本尊如意輪觀音。木ノ座像ニテ
 長一尺一寸。塔頭
 王泉寺 境内東南ノ方ニアリ。三間四方南向。木

寶仙寺ニ藏スル

象ノ頭骨

横ノ方ヨリ見ル
 頂上ニ空穴有
 頭根ヨリ鼻穴ノ
 邊迄四尺余

高サ一尺六七寸余



此ニ穴鼻ノ穴

此所牙根ナリ

寶仙寺

象鼻皮

朽残

牙長ナ四尺六寸五分

又ナ一尺五分

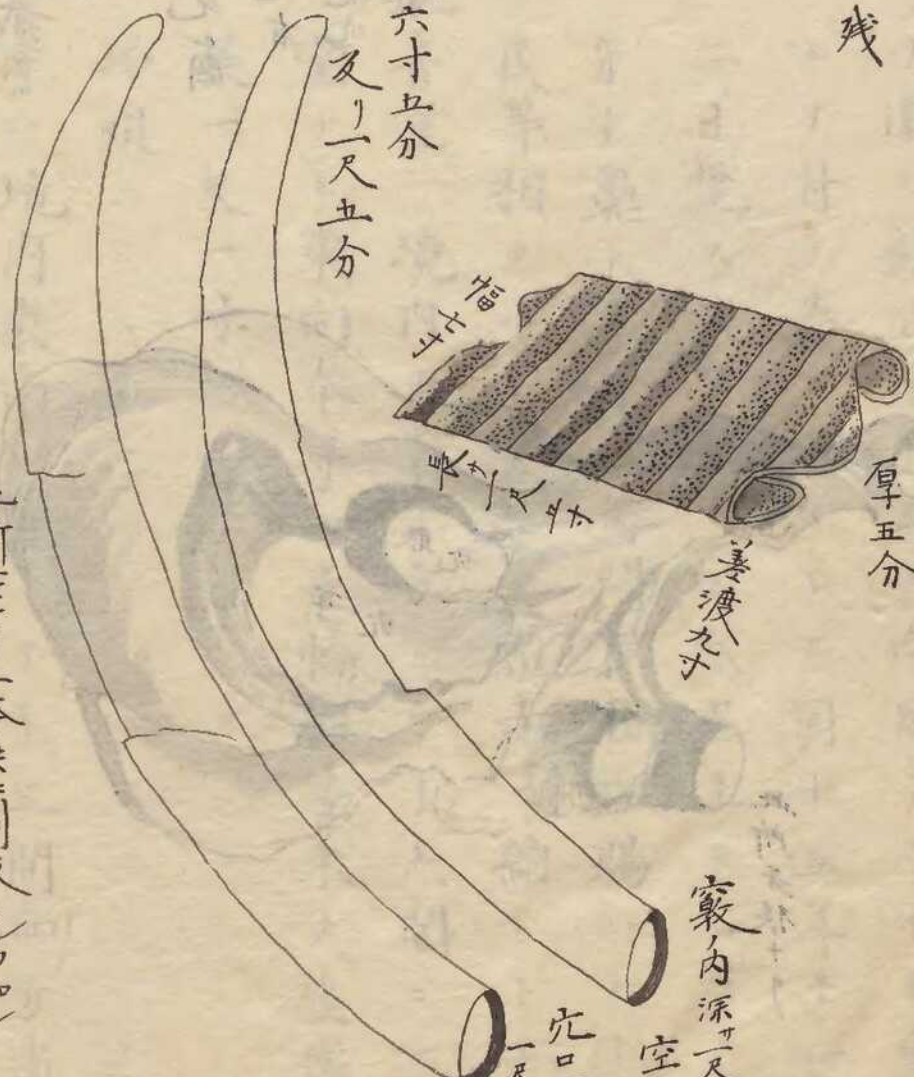
厚五分

善渡子

竅内深ナ一尺五寸余
空虚也

穴口廻リ
一尺一寸五分

此所左右ノ二本共ニ削取ルレカ如シ



尊弘法大師木ノ座像ニテ長二尺五寸。願行ト

去ハルノ作。并殿六間ニ三間光明殿ト扁不

什物

弘法大師ノ画像

愛染明王ノ画像

右三軸トモ弘法大師ノ筆スル所ナリト云

地藏堂木堂ニ向七東南ノ方ニ了斗。一間四方

西向。地藏ハ石ノ立像ニテ長三尺五寸。正下

権現祠前ノツリキニアリ。三部権現ト号ス。ソ

部ノ故ヲ詳ニセス。小祠ナリト云

熊野祠 前ノツ、キアリ。小祠。

三重塔 當寺ヨリ二町ホト東ノ方。御朱印地

ノ内ニアリ。三間半四面。高サ五丈三尺五智如

來ノ木佛ヲ安ス。中尊長二尺。四像共ニ十尺五

寸。先住秀雄ノ代建立セシト云。コノ塔内ニ男

女老形ノ像二軀アリ。造立ノ施主村民飯塚氏

惣兵衛夫婦カ遺像ニシテ男軀ノ脊後ニ施入

塔場。寛永十一年十月。女鉢ノ方ニハ施心妙塔。

寛永十三年七月七日。願主塔院開山法印賢海。

開眼師法印秀雄ト記セリ。

慈眼寺 除地六十九坪。往還ノ内小名上宿ニアリ。福

王山彌勤院ト号ス。新義真言宗ニテ。村内寶仙寺

中末本堂ハ近キ頃雷火ニテ焼失セシエハ。今ハ假

堂トリ。本尊正觀音。木ノ坐像ニテ長一尺四寸。開

山詳ナラス。開基ハ天文十三年トイハハ。古キ寺

ナレトモ其詳ナレコトヲ傳ヘス。

西光寺 除地四畝。西ノ方往還ノ内。高圓寺村場ニ

アリ。紫雲山ト号ス。本寺前ニテナシ。本堂ハ四間

ニ三間南向。本尊ハ不動ノ座像ニテ長一尺三寸。

開山開基詳ナラス。

天満祠本堂ノ西南ノ方ニアリ。九尺四方。神躰ハ銅ノ立像ニテ。長一寸八分。鳥居アリ。安心庵除地五畝村ノ中央ヨリ少シク西南ニヨリテアリ。五間ニ二間。名主卯右衛門ノ先祖ノ墓地ナリシカ。其後庵地ニ附セラレテ。除地トナレリトゾ。屋敷長五間。寛永十二年十月五日。中山主馬抱屋舖北東ノ方ニアリ。寛永十二年十月五日ヨリ抱ヘラケル所ナリ。坪數一萬二千三百五十坪。

野一色外記抱屋舖東南ノ方。本郷村入會ノ所ナリ。正徳六年五月ヨリ抱ヘシ所ナリ。坪數千七百七拾八坪。本郷村ノ條ニモ出セリ。舊家

名主卯右衛門堀江氏ナリ。先祖ハ小田原北條家ニ仕ヘテ。小代官ノ役ヲ勤タルヨシ。北條没落ノ後。此地ニ来リ住セシト云サレド。舊記等モ失ヒタレバ。ソノ来歴ヲシテス。北條家ヨリ文書二通及ヒ豊臣家ヨリノ禁制書一通。都合三通ヲ所持スレハ。舊家ナルコトハ疑ヒナシ。

江戸中城崎之事

曲間

河佐ヶ岳

右江戸中城崎男苗信為、自今改定
是是也信之提議

一 大風吹散時、河佐ヶ岳、水戸野宮、廣田、河野、
三人、船中、中河野、廣田、河野、

信為、歸、被、換、河野、及、河野、曾、付、被、
柳、又、一、年、河野、及、河野、其、河野、河野、
河野、河野、河野、河野、

若、河野、人、摸、合、指、河野、河野、河野、
河野、河野、河野、河野、

以上

右、河野、河野、河野、河野、河野、河野、

如件

河野、河野、河野、河野、河野、河野、河野、

天正四年
子酉
之
海



小代友

河佐与右

百代友

正由孫列妻由以每年初之
身叔之内公儀为幼幼可也

廿八日、浪子小由原(在吉田)
西海之海之出所 在吉田
乃日浪子、お遠中、その曲
事、是河の件



中野河佐与右

小代友

百代友

禁制

武藏國由布郡

中野郡大井

一軍機甲乙人等遊坊樓橋事

一放火事

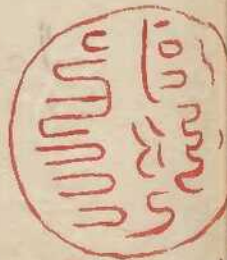
一討地下人羅罪令之儀申送事

右來之儀令修筑表於遠祀

之軍者忽可致屬教外者

豊臣秀吉朱印

天保八年外月日



褒善

百姓千松 百姓佐五右衛門ガ弟ナリ。性篤實ニシテ。父母ニヨク奉養ヲツクシ。兄ヲウヤマヒテ兼順スルコト。近隣其孝悌ヲ賞シテヘリ。然ルニ先年母ニワカレテ後。イタ程ナク又父ヲ喪ヒテカバ菩提ノタメ。出家ノコトヲ望ミカド。兄コレヲ許サ、リケレハ。其意ニ從ヒ。又佐五右衛門ニヨク仕ヘタリ。カレ元ヨリ貧窮ナシハ。止コトヲ

得ス幼年ノ子二人ヲノコシテ其妻ヲハアル武
家ハ奉公トサシム。兄ハ農務ニイトマナケレハ
千松父母ニ代リテ朝夕ノ撫育衣服ノコトマテ
モ懇ニ扶助シ。聊不トフ色ヲイタオス。殊ニ兄ヲ
助ケテ耕作ニモ力ヲ尽シケレハ。寛政十二年正
月十八日。御代官伊奈友之助役所へヨヒ出シ。平
生ノ所業ヲ糺シミルニ疑フヘクモアラスレハ
奇特ナリトテ金五百匹ヲアタヘシト云。今ニテ
ヲ佐五右衛門カ家ニ居レリ。

本郷村

本郷村ハ郡ノ東豊嶋郡ノ界ニアリ。郷庄ノ唱ヲ失
フ。當村ノ開闢詳ナラサレト。村内ニ成願寺アルヲ
モテミレハ古キ村ナルコトハ疑ヒナシ。或ハ又中
野村ヨリ分郷セシヤトイヘトコレモ詳ナルコトヲ
傳ヘズサレト其村ノ名主卯右衛門カ所特ノ文書
中野郷五ヶ村トアレハ其村カ名ハ失ヒタ
レ下オモアルハキヤ村カ廣オハ東西十八町南
北七町アマリ。江戸日本橋ヨリ行程二里半西ハ當

村ノ新田及ヒ雜色和田ノ二村ニ接シ。北ハ中野村
ニツ、キ。南ハ豊嶋郡幡谷村。東モ同郡同村並ニ
角筈村ニ及ヘリ。地形ハ平ニシテ。水田ハ中央ニ
リ。畑地ハワノメ抄リニツ。土性ハスバヲ
野土。檢地ハ天正年中タ、ヒシヨシ傳フレハ。江古
田村十トハ同ク。伊藤小右衛門沼上伊豫封四郎右
衛門池上作藏等ウケタマハリテ檢地ナルヘシ。
御入國ヨリコノカタ。私領ヨシ。今モ尚鉄炮玉藥
同心ノ給地ナリ。
高札場 小名向臺ト云所ニアリ。

本村小名根河原ニシテ。中程ニアリ。早稲作
九輪寺道元前ノツ、キヲ云。西ノ方雜色村ノ境ヲ云。
向臺南ノ方ニアリ。此水ニ堰ヲ設テ引分所ニシテ水田ニ
山川
川 吉祥寺村井ノ頭池及ヒ遲野井村善福寺池ノ
ニ流。和田雜色ニ村ノ堰ニテ落合村ノ西ノ方ヨ
リ村内ハ入。東ノ方豊嶋郡幡谷角筈兩村ノ堰
ニイテ此水ニ堰ヲ設テ引分所ニシテ水田ニ

馬ヲヒサクコトヲ事トス。或時馬代下シテ得ル
所ノ錢皆大觀ノ文字アル古錢ニテアリケル。六
九郎奇異ヲ思フナシ。己カ常ニ信スル所ノ淺草
觀音ハ納メケル。夫ヨリシテ家富遂ニ巨萬ヲ
カサヌ。是大悲ノ靈恩ナルヘシトテ。先祖ノ出ル
所ナレハ紀州熊野ヲ寫シテ一社ヲ創建セリ。則
角筈村十二所權現是ナリト。按ニ角筈村ト當村
トハ接地ニテ。古ヘハ茫々タル原野ナレハ。以テ
境サダカナラス。此邊スヘテ中野トイヒテ。此
前ニモイフコトク。中野村卯右衛門カ所藏

ノ文書ニ。中野郷五ヶ村トアリ。又權現ノ縁起ヲ
見ルニ。ウケカヒカタキコトノミナレト。古クヨ
リ傳ヘシコトナレハ。暫クコトニノス。其縁起ニ
抑長者畜ル所ノ金銀。日ニマシ月ニクヘテ。イヨ
イヨ累積シケレハ。人ノ望ヲカケレテ。怨レ。何ク
ヘカヲサメ隠シト思ヒ。僕ヲシテヒリカニカノ
金ヲ負シノ。アル原野ノ人ナキ所ニ特運ヒテ埋
シムルコト。數度ナリ。カクテハ此僕人ニ語リナ
シコトヲ怨レ。ソノ歸ルサニ橋下ニ於テ殺シケ
リ。ヨリテ其橋ヲ名テ姿不見橋トシ。又カモ

カゲ橋トモイヘリ。ソノ意ハ奴僕物ヲ負テ橋ヲ
ワタリケレトモ。歸ルカモカケ不見ニナリトイ
フ意ニテ。カケ名附シトゾ。然ルニ正保年中
大猷院殿御遊獵ノトキ。當寺ノ境内ヨリ上覽
アラレトテ。此橋ヲ渡御アリシトキ。土人ニ橋
名ヲ尋有ケルユヘ。カノ長者カコトトテ台聽
ニ達シケレハ。イカニモイマハレキ名ナリトテ。
釣命アリテ今ノコトク湊橋ト改サセ玉ヘリト
云。長者カ壮年ノ時一人ノ女アリ。容姿才質人ニ
スクシシユヘ。殊ニ鍾愛セシガ。長者人ヲ殺シ

報應ニヤ。アト曉俄ニ全身鱗ヲ生シ。蛇形トナリ
テ庭上ニハレノクレリ。時ニ雲オキ雨コト。雷
鳴震動シケルニシ。長者大ニ恐レ。此ホトリノ僧
侶ヲマ子キテ祈ラシノシニ。更ニソノ驗ナカリ
ケリ。時ニ相摸國足柄上郡。關本最乘寺ノ春屋禪
師ハ。高德ノ聞ユアリケレハ。コトヲ招キテ法力
ヲ乞ケルニ。禪師ウケカヒテ。池ノホトリニイタ
リ。丹誠ヲ抽テ祈念シケレハ。忽天晴雨止ケリ長
者大ニソノ秘法ヲ感シ。己カ隱惡逃レカクナリ
嘆シ。コレヨリ信者トナリ。則己カ宅地ヲステ

精舎トナシ。受戒シテ正蓮ト号シ。娘ハ法名正觀
ト文字ヲ以テ寺号トシ。諸堂及ヒ三層ノ塔ヲ建
立セリト云。ソレヨリ遙ニ星霜ヲ歴テ。イツシカ
烏有セシ。今ソレ跡ヲ字シテ塔屋敷ト云。當寺ノ
本尊釋迦佛ハ。元此塔ニ安スル所ノ聖德太子ノ
作ナリト云。此日ハ長者ノ行キスニ云。永
享十二年享年六十九歳。終ヲクハニ取ルリ。今按
ニ小田原家人所領彼帳ニ。中野内正觀寺トアル
ハ。恐クハ此寺ノ事ナルハシ。長者ガ娘ハ正觀ナ
リ。觀ト歡ト同音ニシテ。字形モ似タレハ。彼帳

ノ誤寫ナルニヤ。ソノ後又成願ト改メシモ。正觀
ト成願ト音定近ク。其上祈願成就ハ義ニトナリ
イツノ頃ヨリカカク文字ヲカキカヘシモノナ
ルハシ。其後文明八年ニ至リテ。川庵董席ニテ傳
燈ヲカハク。開山ヨリ第四世ニアタレリ。天文五
年六月六日示寂ス。表門ニ二間ニ九尺。
本堂十間ニ七間南向。本尊釋迦木ハ座像トナ
シ。長一尺五寸。聖德太子ノ作。脇士文殊普賢
位牌堂門ヲ入テ左ノ方ニアリ。四間半ニ三間。

衆寮位牌堂ニツクリカケラリ。二間四方鐘ノ徑
鐘樓門ヲ入テ右ノ方ニアリ。二間四方鐘ノ徑
本三尺七寸。高サ五尺三寸。延享四丁卯年九月鑄
觀音堂本堂ノ右ノ方ニアリ。三間ニ二間北向
觀音ハ銅同テ長二尺八寸。二間半。木ノ座像
二尺五寸ナルヲ安ス。二間四方。木ノ座像
金毘羅祠東北ノ方ニアリ。二間四方。木ノ座像
長二寸。二間四方。木ノ座像

福壽院

除地百二十坪

村ノ北寄ニアリ。南光山ト号ス。新

義真言宗ニテ。中野村寶仙寺末。客殿七間ニ五間

南向。本尊藥師ノ座像長一尺五寸。此本尊ハ靈佛

ニテ寄附ノ田畑アリ。何人ノ寄附セシニヤ。其姓

名ヲ失ヘリ。堂ノ背後ニ堂山トイフ所有。此藥師

ニ附セシ山ナリト云。ソノ傍ニ藥師堂村トテ民

家十二三軒アリ。コノ田畑モ此藥師ニヨセシ

モノナリト云。開山詳ナラス。法流開祖ハ寛宥ト

云。享保十一年六月朔日示寂。此院ハ寛宥ト

云。屋鋪

所用。五。今。嶺。外。野。山。在。西。山。在。東。嶺。門。之。東。山。
古。天。下。之。所。出。東。南。山。在。西。山。在。東。嶺。門。之。東。山。
七。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
八。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
九。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
十。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
十一。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
十二。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
十三。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
十四。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
十五。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
十六。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
十七。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
十八。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
十九。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。
二十。嶺。平。十。一。百。嶺。西。北。山。在。東。山。在。西。嶺。門。之。東。山。

木津橋田

堀之内村

堀之内村ハ。郡ノ東ノ方ニ在リ。郷庄ノ唱ヲ失フ。江
戸日本橋ヨリ行程三里ハカリ。村内高低アリ。田
畑ハ西ヨリ東ノ方ニヨリテアリ。土性ハ黒土。民家
五十五軒處ニ散住ス。東ハ和田村ニツキ。南ハ
和泉村ニ接シ。北ハ高圓寺村ニ及ビ。西ニ又和田村
ナリ。村内一條ノ道アリ。中野村鍋屋横町ヨリ和田
村八幡社ノ前ニ達ス。村内ニカ、ル日小十一町ハ
ナリ。此道ニ大松一株道ノ北側ニ在リ。園ニ七口ハ

カリ。土人ノ傳ハ。往古鎌倉ヨリ奥州ハノ街道ニ
テ。養保二年五月鎮守府將軍源義家奥劔夷賊ヲ征
討シ玉ワトキ暫ク代々木村ニ留リ玉ヒシカハ。此
松ニ馬ヲツナキ鞍ヲクテ折セラレタリト。故ヲ以
テ鞍掛松ト名付クトイハリ。尤ウケカヒカタキ説
ナリ。由トニ義家ノ奥劔征伐ハ。寛治五年ノ事トナ
リ。時代モタカヒヌレハ。妄誕ノ説ナリトシルヘ
シ。此邊阿左谷天沼下萩窪及ヒ當村スベテ江戸
麴町山王社領ナリ。何レノ北附セラレシヤ詳ナラ
ス。檢地ハ寛永十二年會田七左衛門江坂源兵衛阿

出川惣兵衛田山権太夫等承テタハセリ。

小名

原 東ノ方和田村ノ境ヲ去。

小屋ノ臺 西ノ方和田村ノ境ニアリ。傳

ヘ云。昔文治五年七月十九日鎌倉右大

將家陣立アリシ時先陣畠山次郎重忠

此所ニ宿陣セリト云。ハニ此唱アリト

云。昔ハ和田村ニ屬セシカ今當村ノ内

ニ入レリ。

清水 北ノ方高圓寺村塚ヲ去。

中道 中程ニ了リ。本村ノ南ノ方ニ了リ。

山川

川 水元ハ。遲野井村善福寺池ヨリ出。隣村和田村ノ内松ノ木ト云所ヨリ當村へ入。村内ヲ流ル。ト十町ばかり流末ハ又和田村ニ至ル。此川ニ堰三ヶ所アリ。一ヶ所ハ村ノ南ノ方ヲ流ル。長サ二十町ハカリ。流末ハ是モ和田村ニ至。又一ヶ所ハ中道ニ了リ。又一ヶ所ハ小名本村ニ了リ。コノ出三流ハ村内ニ本流ニ落合。此三流ヲ處々ノ水

田ニ了リ。

神社

熊野社 除地四百五十坪外。鎮守免一町九段。小名本村ニ了リ。社ハ四尺ニ三尺南向。拜殿二間ニ三間。神躰ハ木ノ座像ニテ。天照太神八幡春日ノ三躰ヲ安ス。各長三寸。前ニ石ノ鳥居ヲ立。松杉數株生立レリ。村民ノ持

第六天稻荷合社

除地八十坪。是モ本村ノ内ニ了リ。二社並テ了リ。共ニ小祠ナリ。拜殿九尺ニ六尺。木ノ鳥居アリ。コノモ松杉ノ森生ヒシケレリ。村民持

妙法寺

寺院

沙汰寺

除地四百五十坪餘。抱添地四千二百三十八坪餘。日蓮

宗。甲斐國身延。遠寺。末開山。妙仙院。日圓。元和七年

十一月十日示寂。此僧ノ名ヲ取テ日圓山ト号

セリ。當寺往古ハ真言宗ナリシカ。元和ノ初今ノ

宗旨ニ改メリト。明和六年丙丁ノ災ニ罹テ舊記

ヲ失ヒ。詳ナルコトヲ傳ヘスト云。本尊三寶諸尊

四天王ヲ安ス。ソノ中持國毘沙門ノ二天ハ運慶

作ノヨシニテ。木ノ立像長七寸。又祖師日蓮ノ木

像アリ。本堂ハ表門ノ正面ニアリテ十四間ニ十

三間南ニ向ヘリ。ソノ餘庫裡及座敷等。覺ヲナラ

ヘテ造レリ。

位牌堂。本堂ノ後ニアリ。三間ニ一間半。

祖師堂。十一間ニ十八間。瓦葺。向拜五間ニ三間。

銅瓦葺。樓門ノ正面ニアリ。上人ノ木體ハ。祖師

四十二歳ノ肖像ヲ。高足ノ筭子。日朗靈木ヲ以

テ彫刻セシモノニテ。除厄祖師ト云。座躰ニテ

長二尺九寸。厨子ニ入レリ。元ハ荏原郡碑文谷

村。沙華寺ニアリシモノナルカ。元禄十一年九

月。カノ寺ノ十八世日附ノ時。妙榮トイエル尼

ノコトニツキ。破戒ノ罪ニ處セラレテ。遠流ヒラ
レ。改宗アツテ天台宗トナリシニヨリ。此木像ヲ
ハ當寺ユ譲リシト云。此頃マテハ庵室ノ如ク。最
カスカナルコトニテアリシカ。其後靈驗世ニア
ラハレ。參詣引モキラス。立願ノ者カテ極テ土木
ノ費ヲ供ヒシニヨリ。次第ニ結構美ヲ盡シ。今ハ
休ヨク繁榮セリ。寺寶
曼陀羅
二幅
日蓮ノ真蹟ナリト云

身延山ノ記
一幅

法華經序品 方便品
一卷

尊圓親王ノ筆ナリト云
一卷

同分別功德品
一卷

光明皇后御筆ナリト云
一卷

同化城喻品
一卷

管家ノ筆ト云
一卷

同從地涌出品
一卷

小野道風筆ナリト云
一卷

大黒天

一軀

傳教大師ノ作ト云。白ニ乘レル木ノ座像ニ

元。長七寸。

同

一軀

自然石ナリ。立躰ニテ長七寸。

摩利支天

一軀

定朝ノ作ナリト云。猪ニノレル座像ニテ長

一寸八分。

朝師堂 本堂ノ後ニアリ。三間四方。身延山久遠

寺十一世ノ僧。日朝ノ木像長五寸ナリヲ安セ

リ。

額堂 二間ニ十八間。樓門ヲ入テ左ノ方ニアリ。

コ、ニ攝待ノ茶場ヲ張テ。參詣ノ者憩息ノタ

スケトナセリ。

鐘樓 一丈四方。樓門ヲ入テ右ノ方ニアリ。鐘ノ

ワタリ二尺五寸長五尺三寸。享保十年ニ鑄シ

モノナリ。

稻荷祠 書院ノ庭ニアリ。境内ノ鎮守ナリ。三尺

一尺五寸ノ祠ニテ。神躰ハ長五寸ノ木像ナ

リ。

樓門 二間半ニ七間南向。祖師堂ヲ距ルコト二
十間ハカリニアリ。此餘同シ邊ニ表門長屋門
東門トト号スル門アリ。惣門トト号スル門アリ。惣門トト号スル門アリ。惣門トト号スル門アリ。

雜色村

雜色村ハ郡ノ東豊嶋郡ノ境ニアリ。郷庄以唱ヲ失
フ。開闢ノ年代ハ詳ナラサレト。村民武助カ家ニ天
正十九年辛卯九月五日ト書セル水帳アリ。武州多
東郡大宮ノ内雜色村トアリ。是御入國ノ前開ク
シコトニラル。今ハ武助カ家モ退轉シテ古ノコト
尋ル由ナシ。寛永十一年ヨリ。伊奈半十郎カ支配
スル所トナリ。正保ノ頃ハ野村彦太夫御代官所及
ヒ佐々木與右衛門新見市左衛門知行ナリシコト

ハモノニニエタリ。後イツノ頃カ新見某カ知行ハ
収公セラレ。御料ノ方ハ御代官モシハク遷替シ。今
ハ御代官小野田三郎右衛門支配所トナリ。コノ外
ニ佐々木與右衛門カ知行支レリ。村ノ廣サ東西十
一町南北九町。東ヨリ北ヘハ本郷村ヲメクテ西
ハ和田村トナリ。南ハ豊嶋郡幡ヶ谷村ニ及ブ。村
内平地ニシテ少シク高キ所モアリ。土性ハスヘテ
野土ナリ。江戸日本橋ヨリ行程二里半餘。檢地ハ寛
永十六年ニアリ。其後延寶二年中川八郎右衛門關
口作左衛門タヒセリ。

高札場御料ノ方ハ。村ノ中程小名本村ニアリ。私

領ノ方ハ東ノ方小名川島ニアリ。

小名

川島村ノ東北ノ方ニアリ。

原前ノツハキ。

打越西ノ方ニアリ。

和田村ノ境ヲ去。

矢島南ノ方ヲ去。

大和田前ノツハキナリ。

向臺東南ノ方ニアリ。

峯下 北ノ方ニアリ。

新山田東ノ方ヲ云

山川

井頭上水 水元ハ吉祥寺村ノ内、井ノ頭池ヨリ出

西ノ方和田村ヨリ當村ニイリ、村ノ西北ヲ流ル

ルコト十四五町ニシテ、末ハ本郷村ヘ至ル。又善

福寺池ヨリ流出ル一条ノ水アリ。和田村サカヒ

ニテ、オチ合。此水ヲ和泉村堰ニテ引分。村内所々

水ヲ水田ニソ、久...

高井神社

多田権現稻荷合社 除地ニ千三百三十二坪 村ノ

中程ニテ。平地ヨリ八九尺ハカリ高キ所ニアリ。

石階十五級ヲ設ク。ワツカナル社ニテ。二間ニ三

間ノ拜殿アリ。南向前ニ木ノ鳥居ヲ夕ツ。鎮座ノ

年代詳ナラス。例祭九月廿六日

氷川神明合社 除地六段六畝八歩 東北ノ方、小名川島ニ

リ。ワツカノ社ニテ。上屋一間ニ一間半。拜殿二間

ニ三間。東向。木ノ鳥居ヲ建。例祭九月廿八日。前ニ

アル所ノ多田権現ト隔年ニ祭ル。村内正藏院持

寺院

寶福寺

除地十坪

村ノ中程ニアリ。如意山ト号ス。新

義真言宗ニテ。中野村寶仙寺ノ末客殿六間ニ四

間南向。木尊聖徳太子ノ立像。長二尺八寸ナルヲ

リ。開山開基詳ナラス。

觀音堂。木堂ノ左ノ方ニアリ。三間四方。如意輪

ノ座像長一尺五寸ナルヲ安ス。

正藏院

除地一段二十歩

小名川嶋ノ内ニアリ。圓通山海

章寺ト号ス。是モ同宗同末。木堂ハ近キコト焼失

セシヨリ。ホ夕再造ニ及ハス。木尊正觀音ノ座像

一尺五寸ナルヲ安ス。開山開基詳ナラス。

和田村

和田村ハ。郡ノ東ノ方ニアリ。郷庄ノ唱ヲ失フ。開墾

ノ年代ハ詳ナラザレトモ。村内ハ幡ノ古社アルヲ

以テ見ルトキハ。古キ村ナルコトハ疑ナシ。村名ノ

起ラシラス。江戸日本橋ヨリ行程三里バカリ。東ハ

雑色村木郷村ニ境ヒ。西ハ成宗村ニツキ。南ハ和

泉村ナリ。南ヨリ東ハ甲加街道小名萩窪道向フハ

荏原郡代田村豊寫郡幡ヶ谷村ナリ。北ハ堀ノ内村

妙法寺道ヲ堺トシテ。民ノ方ハ中野村ニ少シクツ

ヅケリカク入合シ村ナレハ。里數モハカリガタケ
 レト。リノ大抵ヲイハハ。東西十三町南北十八丁。甲
 刃街道村ノ南ノ端ヲツラス。久東豊嶋郡幡ヶ谷村
 ヲリ。西當郡和泉村ニ達ス。民家百二十軒。當所ハ
 御入國ノ後正保ノ頃ハ。内田勘右衛門カ知行ナリ
 シ由。リレヨリ後今モ内田主計カ知ル所ナリ。檢地
 ノ年月ハ先年名主ノ家火災ニカハリテ。古キ記録
 ナ失ヒタルハ詳ナラス。

高札場 村ノ北ノ方ニアリ。

小名

谷中 東ノ方ヲ云
 峯村 是モ東ノ方ナリ。
 方南 東南ニヨリテアリ。
 大宮 西ノ方ニテ。八幡ノホトリナリ。
 松ノ木 前ノツ、キニテ。少シク北ハヨ
 萩久保 南ノ方ヲ云
 木村原 北ノ方ニアリ
 水利

井ノ頭上水、村ノ西ノ方ヲ流ル。和泉村ヨリ来リ
雑色村ニ至ル。又遅野井村善福寺池ヨリ出ル水
アリ。是ハ堀ノ内村ヨリ入。雑色村ニ達セリ。

神社

八幡社 除地六万坪 小名大宮ニアリ。社領 御朱印三
拾石天正十九年附セラル。別當大宮寺。神職中野
右近。社領ノ内拾五石宛配當セリ。各當社ノ惣門
ヨリ二町程ヲ隔テラレリ。緑起ニ去。當社ハ
人王七十代 東 後冷泉院ノ御宇。天喜年中奥州ノ夷賊蜂起セシ

時、鎮守府將軍源頼義 勅ヲ蒙リ。奥州ニ向ヒ玉
ハレトテ。當所ヲ過キ玉フ時。空中奇雲夕ナヒキ。
オナカラ白幡ノ如クナリケレハ。將軍奇異ノ思
ヲナシ。是宇佐八幡ノ影向セルナラレトテ。則當
社ヲ勸請シ玉フ。因テ降幡山妙雲院ト号セリ。其
後
堀川院ノ御宇。奥劔ノ武衡近國ヲナヤマシ。王
命ニソムキケレハ。寛治元年源義家追討ノ 勅
ヲ承ハリ。カノ地ニ向ヒ玉フ時。天喜ノ例ニ倣テ
幣帛及ヒクサノ寶物ヲ納メ玉フ。又遙ノ星霜



大宮八幡社地之圖

ヲヘテ。文治五年鎌倉右大将泰衡追討ノ一勅ヲ
ウケ。奥州ニ打向ハレトテ。此所ヲ過キシ時。山中
ヨリ白鳩二羽飛去リシカバ。是八幡擁護ノ奇瑞
ナラシトテ。イサミテ進發シ。日ナラスシテ凶賊
ヲ平ケ。梶原景時ヲシテ當社ニ幣帛ヲ奉セシム。
シカルニ天文年中。長尾景虎ノ乱ニヨツテ。兵火
ノ為ニ社檀ノトクク燒失シ。什物等スヘテ鳥有
トナリ。一物ヲモノコサス。天正年中ニイタリ。
東照宮ヨリ神領ヲ附セラルト見エタリ。此縁起
天正十九年極月。別當某記セシモノナリトイヘ

ト。其後燒失セシテ。後人ツ、リナラセシモノニ
テ。殊ニ武衡追討ノ勅ヲ蒙リ。奥州ニ趣キ征伐
セシハ。寛治五年ノエトニシテ。年代等モ定カナ
ラサレハ。全文ヲハモラセリ。此等ノコト上リシ
世ノコトナレハ。其詳ナルヲシラス。神主ノ傳ニ。
文治五年七月十九日。鎌倉右大将出陣ノ時。當社
ヘ祈念アリ。先陣畠山次郎重忠。此所ニ陣ヲトリ。
其餘三浦平太義村。葛西三郎清重。工藤小次郎行
光。同三郎祐光。狩野五郎親光。藤澤次郎清近等。暫
ク在陣シ。遂ニ賊徒ヲ平ケ歸陣セリ。此日九月十

九日ノコトナレハ。嘉例ナリトテ。祭禮ハ此日ニ
定メタリト云。東鑑ヲ閱ルニ。十月廿四日右大將
鎌倉御歸著トアレハ。此比ノ事ヲ云ニヤ。サレド
コトニ附會ニイテタリト見ユレハ。信ニカタレ。
或ハ云。鎌倉八幡ノ祭ハ八月十五日ニハ。當社ヲ
ハ九月十五日ニ定メタリシカ。先年多磨川水溢
ノトキ。渡船ナシカタク。其日ヲノヘテ九月十九
日ニ祭式ヲ行ヒシヨリ。遂ニ此日トナレリトゾ。
惣門。道ノ邊ニアリ。此道ハ古ハハ鎌倉街道ナ
リト云。

鳥居。惣門ヲ入テ正面ニアリ。木ニテ造レルモ

中門。惣門ヲ入テ百五十間ハカリニアリ。一丈
ニ五尺。

本社。二間ニ一間高欄付。神躰三軀。木ノ立像ニ
テ。各五寸ハカリ作シレス。厨子三重ニシテ。其
内ニ安ス。外厨子高二尺。中ハ高サ一尺五寸。内
ハ高サ一尺餘。前立一軀。木ノ立像ニシテ。衣冠
ニシテ形ナリ。春日ノ作ト云。本地弥陀ノ立像ヲ
安ス。長一尺。脇土觀音勢至。是モ木ノ立像ニテ

各七寸ハカリ弘法ノ作ト云傳ハ云此三躰ハ
應神天皇
仁徳天皇武内宿称ナリコレヲ甲羅明神ト云
拜殿 六間ニ二間半向拜アリ二間ニ六間
護摩所 前ノツキニアリ三間四方
鐘樓 中門ヲ入テ左ノ方ニアリ九尺四方鐘ノ
ワタリニ尺六寸寶永七年六月十五日鑄造
神樂堂 拜殿ヨリ北ニヨリテアリ二間ニ三間
東照宮 御社ハ本社ノ後ニアリ
末社

山神社 三ノ五ノ本草車中ノ間泉ナリ
天満宮
太神宮
若宮社
稻荷社
三島社
右ノ六社何レモ本社ノ左右ニアリ小祠
別當大宮寺 降幡山妙雲院ト号セリ新義真言
宗ニテ中野村寶仙寺ノ末ナリ八幡ノ惣門ニ
テ二町餘ヲヘタテ別當ノ宅アリ此内ニ古

松一株タテリ。古へ二ノ鳥居ノアリシ所ナリ
ト。又東ノ方へ四町ハカリニモ。一株ノ古松立
リ。是ハ一ノ鳥居アリシ所ナリト。コノハ今堀
ノ内村ニ属ス。八幡ノ進退元寶仙寺ノ預ル所
ナリシカ。社地隔リテ不便ナレハ。永享元年當
寺ヲ起立シテユツレリト云。客殿八間ニ七間。
開山ヲ聖永ト云。寂年詳ナラス。中興開基ヲ龍
山ト云。元禄元年六月七日示寂。本尊ハ不動ノ
立像ニテ長五尺良辨ノ作ト云。脇士共ニ立像
ニテ長三尺五寸。永享年中ノ開基ナレハ。古キ

記録モアリシカ。前ニモイフゴトク。長尾景虎
ノ乱ニヨリ。兵火ニカ、リ鳥有セリトテ。今ハ
開山ノ名ナヘ傳ヘス。古碑一基。大門ノ通り北
側。提ノ上ニアリ。文字磨滅シテニエス。刀瘢ノ
痕アリ。傳ヘ云。先年コノ碑夜中恠異ヲナシテ。
シバム人ヲ惱セシニヨリ。或旅人變化ノモノ
ナリト。誤テカラスキ切カケシ。其迹ナリト云。
東國信シカクキコトナリ。何人ノ造立セシヤ。其年
歴ヲ傳ヘズ。古キモノナルコトハウタカヒナ
シ。長ハ二尺八寸ハカリニシテ。臺石アリ。五輪

ノ形ニ似タルモノナリ。

寺院

東圓寺

除地千五百五拾坪

村ノ北ノ方ニアリ。醫王山ト号

ス。新義真言宗ニテ。中野村寶仙寺門徒。本堂七間

ニ六間。本尊藥師ノ立像長一尺ナルヲ安ス。開山

ヲ秀海ト云。示寂ノ年月詳ナラス。開基ハ村民半

六ト云モノナルヨシ云傳フレトモ。其年月ヲ詳

ニセス。

石地藏六躰。本堂ノ東南ノ方ニアリ。共ニ長四

尺許。小カニ一躰ナリ。是ハ長六尺餘。

觀音堂

本堂ノ西南ノ方ニアリ。二間半四方ノ

堂ニテ。觀音ノ像ハ長六寸三分。厨子ノ中ニア

真峯庵

年貢地百五十坪

村ノ中程。小名峯ニアリ。二間半

四方。本尊不動ノ座像。長一尺九寸。開山ヲ即山ト

イフ。延享四年十一月十一日寂。開基ハ村民半六

ノヨシ云傳フ。

念佛堂

年貢地五間ニ六間程

小名方南ニアリ。二間四方。本

尊彌陀ノ立像長一尺八寸。脇立觀音勢至共ニ木

像長七寸。外ニ地藏ノ像アリ。銅佛ニ長三寸二

分。此堂ハ正保元年一安トイヘル僧開基セリト。
天和二年七月十五日示寂。荏原郡中目黒村祐天
寺ノ持ナリ。

塚

十三塚 東圓寺ノ北ノ方ニナリ。則此寺ノ持ナリ。



中西ニヨリタルハ頗ル大ナリ。高ナ四尺ハ
ナリ。餘ハイツレモ高ナ二尺餘。其来由ヲ詳ニ
ス。又馬橋村塚ニ一塚アリ。高ナ二丈許。敷八間。是

モ来歴ヲ傳ヘス。

新編武藏風土記卷之一百二十四

